

九州山行のエピソード・感想

タクシー

空港までのタクシーの中運転手との話が盛り上がりて庄内川の堤防を通過する時は洪水の話、その補償話から原発事故の話題へと発展した。原発に関しても私達と同じ立場の考えでした。

皆が我慢すると行っているのに何故??再稼働??

タクシー料金

感覚的に高蔵寺ニュータウンから空港までは尾張旭よりかなり近いと思っていた。

料金が両者 6000円程度でほぼ同一には納得がいかなかった。が！帰って改めて距離をグーグルで確認すると高蔵寺のアピタから 17.8km、尾張旭市役所から 17.9km とびったんこでした。

感覚が当てにならない事判明。旭からの料金6990円なり！

FDAの飛行機

FDAの84人のりERJ175のピンク色はアンケートで決めたとか。

機体は小さいけれど座席の座り心地、乗り心地は帰路のANAよりかなり良かった。機体が新しいとか、天候、席など条件が違ってくれど・・・機内サービスも良かった。



スカイレンタカー

東海地方では名が知れていないこの会社、少し不安も有ったが結果正解でした。車種は人数と荷物で少し大きめの車MPVに変更してくれた。フルオプションの保険を月額500円程度で勤められたが断っていた。これが裏目だったと思った瞬間が祖母山下山後移動中に左ホイールキャップを縁石に接触した事故。連絡すると保険外で12000円と・・・しかし最終無料となった。

後で調べるとスカイレンタカーは沖縄本社で従業員340人年商75億円の中堅の会社でした。設立は2007年とか。とにかく不幸中の幸いでした。

仙酔峡の案内

阿蘇山に入る前にみやげ物売り場兼の案内所で山の様子を聞いた。案内所にはおばちゃんがいる「山の立ち入り禁止区間」について聞くと 実は仙酔峡のロープウエーの営業自体が廃止となった為 火山ガス濃度測定が出来なくなって、立ち入りが禁止になっている。実際に危険かどうかはわからない、自己責任で通過したという登山者もいた。」公には禁止としか言えないとの事であった。



不屈者！

仙酔峡尾根を登る間はずっと展望が良くてロープウエー横のルートも良く見えた。

眼を凝らすと下山する不屈き者がいる。もってのほか！！と思っていた。

私達は案内所で事情を聞くまでは高岳または中岳から引き返す予定だった。

高岳は最高点 1592m中岳 1506m、中岳まで来てしまった。 見ると先行の 15人程のグループは引き返すことなく火口付近を通過してロープウエーコースで下山しているではないか・・・

とうとう私達も不屈き者になってしまった。

マイツルソウとミヤマキリシマ

裾野のミヤマキリシマはすでに終わっていたが高岳分岐から根子岳方面の南斜面はガスの合間からピンクに染まっているのが分かった。

残念ながら時間の都合によりそちらへは行く事が出来なかったが高岳へ向かう尾根ではマイツルソウが満開で迎えてくれた。。



南阿蘇のコンビニ

2日目の祖母山へは早立ちの為休暇村の朝食はいただけない！従ってコンビニで朝食と昼食を調達する事になった。 休暇村のフロントで近くに有るというその店、結構車で走りました。休暇村から5～6kmは離れていた。 名古屋では考えられない距離感だった。 あとチェックインで朝食無しで料金は割引を交渉してみたが無理でした。 当然か～！！

夕食のバイキング

夕食がバイキングの宿は少ないと思う。 朝食分も含めて元を取ろうとしても腹が受け付けない！ 食べ過ぎては調子を崩せば元も子もない。 スタートが遅く頑張ってステーキを食べて時間一杯だった。（夕食終了時間は20時）

イノシシ

前回山行でこの休暇村で見たというイノシシ今回は未確認！フロントに聞いても首をかしげるばかりだった。

早立ち カーナビ道迷い

祖母山へは五力所高原を通る。目的地を五力所小学校としてセットした。ところが道が所々新しくなっていてカーナビが変な反応をする。とんでもない所で右折左折を指示されて混乱した。 新しい橋を通過すると目的地から遠ざかってしまう。 Uターンして橋まで戻ると橋の手前に側道が有って旧道へ抜けることができた。 ロスタイム 10分以上。

ナビのデータ更新してよ！とスカイレンタカーに文句を付けたい気分だった。

五力所小学校を過ぎると道は狭くなり 舗装も無くなり車一台やつのかまぼこ道となった。

MPVの車体を傷付けない様にゆっくり走った。北谷登山口の駐車スペースは5～6台程度だった。 私たちは2番目、下山時は10第程と停まっていたびっくりだ。 腐っても10名山か！

祖母山

北谷登山口からの道はほとんど急登といえる所はなかった。ただ小雨が降ったためぬかるんで四つん這いになっても滑る箇所が何カ所もあった。下りは更に滑りやすく何度尻をトロに付けそうになったこ・風穴コースを下りに使わなかった事は正解だったかも・
尚山頂では数輪のヤマキリシマに会えた。また北谷はキタヤと読むらしい・・・

清姫温泉の若い衆のお迎え

清姫温泉へは北谷登山口から200km以上ある、連絡してあった到着時間より30分程早く18時ごろ駐車場についた。駐車場で荷物を下ろしていると若い女性従業員が4から5人集まってきて荷物を持ってくれると言う。重い荷物をカワイイ女性に持たせるのが、忍無く自分で担いでいった。これはやせ我慢(^_^;)！！

美味しい夕食＝ 土産付き

清姫温泉という宿はカラオケ、日帰り入浴も出来る温泉場だった。

(お湯は本物でも掛け流しではない。)

学生の合宿にも使われているとネットにあった。実際に小中学生くらいのバレーチームが泊まっていた。雰囲気は温泉宿ではなかったが・・・夕食、朝食は充分楽しませてもらった。美味しかった。朝食時間も融通がきき、弁当も作って貰うことが出来た。

おまけにショウガ砂糖をまぶしたせんべいのお土産までいただいた。

弁当はウナギとブタ角煮が入ったオニギリ2つと若干のおかず付きで700円

これは開聞山頂で食べた。)

ぐるぐる開聞岳

開聞岳登山口は山麓ふれあい公園の駐車場だった。到着した時にはすでに多くの先客がいた。全てが登山客とは限らないがかなり大勢がすでに山に入っている様だった。事前の天気予報では山頂は10mの強風とあったが、登山道は5合目位までは深くえぐられた溝の道が続きその後も山頂まで樹林帯で風の強さは感じなかった。やっぱり山頂はガスの中で展望どころか風を避けて狭い山頂の窪みに隠れて昼食をとった。

五才の子供と赤ちゃん連れのグループ

開聞岳は往復4時間程度の山で登山グループも様々だった。親子三代のグループやペットボトル1本持ったスニーカーの外人親子、15人以上の団体ツアー登山客等とすれ違った。軽装な登山者は山頂では寒いじゃないか。今から登ると下山は17時ごろかな！と要らん心配をしてしまった。

展望

開聞岳頂からの展望はゼロ、中腹の3カ所位から長崎鼻や種子島方面を見ることが出来た。

下山後も山頂付近は雲を被っていたが公園の芝生からと長崎鼻から見た銀色に輝く海に浮かぶ薩摩富士と言われる端正な開聞岳が印象的だった。



砂むし温泉は混浴

休暇村指宿の砂むし温泉は男湯の大浴場の奥にあって、裸の上浴衣を着て入って行くと混浴の砂むし温泉場だった。

裸では無いものの隣に見知らぬ女性がいる事を考えると少し緊張！！ 後から我らの三人の女性が入って来た。 カメラを持ってくれば良かったと後悔した。

薩摩づくし

最の宿泊だ有った休暇村指宿、夕食は1500円も！！？？奮発して 薩摩づくし というコースにした。本場きびなご、さつまあげを美味しくいただいた。 朝食バイキングはそれぞれ！

写真にもUPLしました。 5こん5様で阿蘇の朝食抜きの敵をとれた！？程しっかり食べさせていた

知覧特攻平和会館 侏ともに読むと涙...)

特攻出撃前に書いた手記、遺書が第一次、二次と順に展示してあった。 達筆で書いてある為なかなか読み取ることが出来なかった。 かろうじて読めた一文でさえ胸にこみ上げるものがあった。 国の為、残された家族の為自分の命さえ惜しまないという決意は尊い。 当時戦時下という社会の中で彼らはそ決意するしか無かったのだらうと思った。 自分がその立場に追い込まれていれば、彼らと同じ様な決意をしていたのではと思う。

知覧を逆に利用して昔の日本に戻したがる勢力も有るのであって まだまだ広い視野で物事を考え られる今の日本の守っているのは、現在の憲法なのだろうと思った。

たとえ私達、私達が作り出した今政治や今の若者が軟弱で有と言われても・・・

あの時代より素晴らしい時代を生きているのだと、そしてあの時代に戻してはならないと思った。



Yさんと再開

知覧の後は鹿児島中央駅でYさんに再会した。瀬戸から鹿児島へ移って7年が経過したとの事。

慣れぬ農業、親戚づきあいの苦勞を話されていた。 あの優しいYさんでもストレスで切れそうなのだとおっしゃっていた。 私の数年後を想像すると他人事ではなかった。 でもYさんは私達の想像以上に再会を喜んでくれていて嬉しかった。

桜島

Yさんとの再再会後、飛行機の時間まで数時間余裕があった。そこで桜島へ渡った。

桜島港から近い足湯のある公園とビジターセンターを見学するつもりだったが、足湯が休みでビジターセンターだけとなった。

センターでは桜島誕生のフィルム上映が有って小さな展示館だが見応えがあった。

展示物の一つに火口のライブ映像と地震波の映像があった。この説明を受けている最中に、この波は噴火です。大きいですね。！と説明を受けた。

噴火など経験が無い私達はその意味する事はわからなかった。

センターから桜島港へ帰る10分の間息苦しさを感した。ガスなのか道路の火山灰が舞っているのか分からないがタオルで口を押さえて歩かざる得なかった。

フェリーに乗って一安心したが、鹿児島港に着いて振り返り桜島方面を見ると、夕立の黒雲の様な噴煙が追いかけてきていた。レンタカーに乗って駐車ゲートを通過した直ぐ後にいきなりフロントガラスが泥まみれ、砂まみれとなった。前が見えない様子は北国の吹雪の中を走る時のようだったが、雪と違うのはウオッシャー液では簡単に綺麗にならない事だった。地元の人達には大した事では無い様で鹿児島市内を車がビュンビュン飛ばしていた。市内を抜けて鹿児島空港に向かって高速道路に乗った頃やっと噴煙の落下が収まった。鹿児島の人達の苦勞と遅しさを感じた経験だった。



同行の皆さん！すみません！ありがとう！お疲れ様！

計画未熟で結果的に 万円以上予算オーバーで、すみませんでした。！

車の接触でびっくりさせてすみませんでした。！

我が奥様のいびきすみませんでした！

私の現役のスケジュールに合わせていただきありがとうございました。！

微スローペースの登山に付き合って下さって還って足を絡ませてすみませんでした。。

全山ミヤマキリシマに会えなくてすみませんでした。

楽しい思い出ありがとうございました。！ そしてご苦勞さまでした。

2012/6/14 by YA